



老連役員研修旅行

六ヶ所原燃PRセンター見学

10月14日(月)、六ヶ所原燃PRセンターで老連役員研修会が行なわれ、単位老人クラブ会長など38名が参加した。大型台風19号の翌日で天候が心配されたが、岩木山に雲一つない晴天に恵まれた。

出発時刻に合わせて集まってきた参加者から、(トランプ持って来たな?。今日は、トランプやってもらえない酒飲まねばまねもの...)8時、予定どおり常盤老人福祉センターを出発した。バスの中で館山新一会長から本日の日程と、今後の老連関係事業への協力をお願いがあり、「お互い親睦を深め楽しい研修会に」と挨拶があった。

途中、道の駅「ゆくさ浅虫」で休憩をとり、10時30分頃になると景色が一変、丸い大きな石油燃料備蓄タンク。風力発電の風車・太陽光発電ソーラーパネル板が数えきれないほど見えてきて、いよいよ原子燃料サイクルセンターに近づいたなあと感じる。



令和元年度 藤崎町老連 役員研修旅行 2019.10.14

発行者
藤崎町老人クラブ連合会
広報委員会
藤崎町老人福祉センター内
電話 七五―三三三三

ンターへ到着した。早速、記念撮影をした後、PRセンター担当者案内で、2班に分かれて見学が始まった。原燃PRセンターは3階建の施設で、原子力サイクル施設を大型模型やパネル・映像で分かりやすく紹介している施設である。

原子力サイクル施設では、八千人が働いていてその9割が地元雇用で、出稼ぎ者が無くなったという。六ヶ所村の施設では、原子力発電所で出た使用済み燃



サイクル施設の立地状況説明



原子力物知りコーナーにて



原子燃料の集合体(実物大)

料の96%が再利用出来るリサイクルの過程や人間と放射線についてなど説明の中で、風車は何基あるのか?(92基)1基の建設費用は?(3億円)など参加者から次々と、色々な質問があった。約1時間見学し、原燃PRセンターを後に、昼食・懇親会場の「ろっかぼっか」へ、正午に到着した。

会長挨拶に続き、木村美智子副会長の乾杯の音頭で、懇親会が始まった。日頃の、活動状況の懇談や、カラオケ(21名)で盛り上がった。

帰りには、六ヶ所村特産品販売所「六旬館」に寄った。土産物を買ひ、皆さんは心も体もポッカポッカ、満足げの笑顔で一杯だった。

レクダンスフェスティバルのお知らせ

- 一、期日 12月12日(木)
- 二、内容 ○第一部 講習会 スポーツプラザ藤崎 9時30分〜12時30分
○第二部 舞台発表 藤崎町文化センター 13時〜15時
- 三、講師 (公社)日本フォークダンス連盟公認指導員 副会長 小倉 洋子 氏
- 四、受講料 無料
- 五、その他 広報「ふじさき」の折込をご覧ください。

65歳以上の男性対象! にこにこわいわい健康教室

- 一、日時 12月18日(水) 13時30分〜15時
- 二、会場 スポーツプラザ藤崎 2階 柔剣道室
- 三、講師 健康運動指導士 小関 潤子 氏
- 四、内容 ボールやタオルを使った体操・運動やストレッチを通して体力・筋力の維持と向上を目指します。
- 五、持ち物 上履き、汗ふきタオル、飲み物
- 六、参加料 無料
- 七、その他 申し込みは不要です。動きやすい服装でお越しください。
- 八、問い合わせ スポーツプラザ藤崎 75―3323

ジエネリック医薬品と健康食品

- 一、日時 12月18日(水) 13時30分〜15時
 - 二、会場 藤崎町文化センター 3階 多目的ホール
 - 三、講師 青森県薬剤師会 会長 木村 隆次 氏
 - 四、内容
 - ①ジエネリック医薬品と健康食品とは
 - ②安全性について
 - ③どんな効果とメリットがあるか
- 今回は正しい知識や安全面も含めた上手な付き合い方やコツ等を学びます。
- 日頃、疑問や不安等をお持ちの方は、質問の時間を設けておりますので、是非ご参加下さい。

第九回町老連・中南部老連芸能発表会のお知らせ

- 一、日時 12月22日(日) 午前10時〜午後3時
 - 二、会場 藤崎町文化センター大ホール
 - 三、出場者 中南部(大鰐町・田舎館村・西目屋村・藤崎町)老人クラブ会員が多数出演します。
 - 四、その他 入場料 無料です。
- ※抽選会観覧者には沢山の賞品を差し上げます。

12月行事予定表			
日	曜	行事	時刻
1	日		
2	月	役員会	10:00
		芸能部	12:00
3	火	日本舞踊部	12:00
4	水		
5	木	囲碁・将棋部	12:30
6	金	芸能部	12:00
7	土		
8	日		
9	月	生け花部	10:30
		芸能部	12:00
10	火	日本舞踊部	12:00
		囲碁・将棋部	12:30
11	水		
12	木	レクダンス・フェスティバル	9:30
		囲碁・将棋部	12:30
13	金	芸能部	12:00
14	土	ふじ健大OB会	10:00
15	日		
16	月	芸能部	12:00
		広報委員会	13:30
17	火	日本舞踊部	12:00
		囲碁・将棋部	12:30
18	水		
19	木	囲碁・将棋部	12:30
20	金	芸能部	12:00
21	土		
22	日	中南部老連 芸能発表会	10:00
23	月	芸能部	12:00
24	火	日本舞踊部	12:00
		囲碁・将棋部	12:30
25	水		
26	木	囲碁・将棋部	12:30
27	金	生け花部	10:30
28	土	【白寿】配布日	12時以降
29	日		
30	月	年末休業	
31	火	大晦日	

町老連 新年研修会 受賞祝賀会のお知らせ

※プログラムは12月15日発行の「広報ふじさきお知らせ号」に折込で配付します。

※単位クラブ会長はお誘い合わせの上、観覧者を取りまとめ下さり、多数ご観覧下さるようご配慮をお願いします。

※バス巡回経路について

常盤老人福祉センター発 9時↓ 水木↓ 福館↓久井名館↓ 榎↓ 中島↓ 矢沢↓ 文化センター着 9時30分

文化センター発 15時↓ 復路

その後の経路は往路の逆順で巡回します。常盤老人福祉センター着 15時30分

一、日時 1月17日(金) 10時30分〜14時

二、場所 町文化センター 多目的ホール

三、日程

- ①受付 10時〜10時30分
- ②開会式 10時30分〜10時40分
- ③講話 10時40分〜11時20分

演題 「住みよい町づくりと高齢者対策について」

講師 藤崎町長 平田 博幸氏

④全老連会長・県老連会長表彰 11時25分〜11時35分

◎全老連会長表彰 西中野日長寿会(代表石井哲子氏)

◎県老連会長表彰

成田 早苗氏 (小畑長寿会)

間山 由吉氏 (福島老人クラブ第二)

三浦 進氏 (徳下徳寿会)

齋藤 剛一氏 (三ツ屋老人クラブ)

⑤祝賀会・懇親会 11時40分〜14時

四、参集範囲 単位クラブ3名以内、専門部会3名以内、広報委員3名、若手委員5名、女性部員5名(会費は、一人一千元)

五、申し込み 詳細は、町老連機関誌【白寿】令和2年1月号をご覧ください。

「ぼちぼち墓地を考える」

今や人生百年時代と言われる長寿の時代、戦争の無い日本何よりも良い国だと思います。私もついこの間生まれたような気でいましたが、いつの間にかもう八十歳になっていました。何だか知りませんが、私は近頃新聞の「お悔やみ欄」を見るのが癖になりました。人がそれぞれ神様から戴いた寿命というものがあつたのだと聞いたことがあります。人によって持病を背負って生まれてくる人、不慮の事故で若くして命を失う人、兄弟でも年の若い方が先に亡くなられる方もあります。どんな人でもいづれ必ず命を終える日が来ること……これは間違いありません。やがて永遠の世界へ住むことになります。俗に言えばお墓に入ることです。



最近、お墓のことで耳にしたことに、散骨とか樹木葬とか、色々言う人がおられます。宗教心、信仰、信心等ひとにより様々です。私のような凡人は、これという宗教、信仰を持たず、確固たる信心もなく、一応この世を去る時には、ご先祖様が代々に眠っている墓地へ入るものだと決めており、安心しております。

しかし現代を生きる人々には色々違った意見の人もおり、夫婦でも同じ墓へ入りたくないとか、自然に帰るのだから樹木葬がいいのだとか、生命の源は水であるから海へ散骨するのだとか、多様化してきております。また、墓石についてもこだわりの人が色々あります。墓石の並べ方、石の材質(豪華な墓石)、墓石の形、親とは違う宗教だから墓石も変えてとか様々あるみたいです。

最近はずーっと昔から続いていた多世帯家族が減り、ほとんどが核家族になりました。昔からの本家、分家ですますます増えてきております。我々高齢者(この【白寿】を見ている諸君)も一般的に若い人より先にいくのが道理というもの……墓地を決めていない皆さんも、そろそろ自分の最後の住み家である墓地を決めておかないと困るのではないかと……いろいろ知ったかぶりをして綴って来ました。

最後に一つ危惧されることがあります。それはわが国でも少子化などを背景に、無縁墓地が増えていることです。私の菩提寺の住職さんから聞いたことがあります。が、私のお寺でも後を継ぐ子供さんが居ないとか、故郷をはなれ故郷へ何十年も帰らず、お寺へもお墓へも顔を出さず、お寺さんへの維持費も払わず、放置されたそのまんまの墓がいくつもあるそうです。「墓じまい」と言うことが言われる昨今、弘前市では県内初の合葬墓が作

られたということです。いづれにしろ「墓じまい」あるいは自分が入る墓が決まっていけない人は、生前にきちんとそのことを決めておくべきだと考えています。自分の人生のフィナーレ、これを決めておくことが本当に大事な最後の終活だと思います。くだらない事をそれらしく言ってきましたが、皆様はどのように考えているでしょうか……

古老が語る

「物知りの記録」(6)

乱文乱筆 多謝 (読者より投稿)

大字徳下地区

平成3年7月1日収録

古老5

81歳

徳下の戸数は以前は55〜56軒と聞いた記憶がある。

農閑期(休み)

「さなぶり」は、秋であれば稲こぎ終わった後では3日位休んだ。「さなぶり」てへば、十文字に集まって一石(米5斗の重さ)一五〇kg)の「石かずぎじよっこ」をした。どこでもやるので、若い人達皆一緒に集まった。その休みの時、ただ石を「たないだり」して遊んでいた。石たなぎ競争、力くらべである。



力 試 石 (常盤八幡宮)

この頃は自転車のある家は何軒もなかった。町へ行くにしても歩いて行くには、遠くてなかなか行けなかった。

服装

綿入れのカスリの着物を着た。「ブツチャキ」と言った。夏はシャツにズボン、それに下駄を履いていた。履き物は、大抵下駄であった。また、「セキダ」といって、木で出来て莫塵を敷いた下駄のようなもので、歩きやすいものであった。

食べ物

食べ物は、ニシンやタラを干したり、鱒をよく食べた。

住まい

「ニヤ」(作業場)と言って普通の家に「おろし」れば、片屋根の出屋を作った人もいるし、大きい家であれば、「二オ」を積んだものだ。その稲こぎ時、そこから運んできて稲こいだものである。あの頃は旧正月で年をとったので、旧正月まで稲のままで持っていた。正月が来るので稲しまねば(終わらねば)まねなどといってやったもんだ。最初の頃は、「センコギ」で稲をこいだ。それから足ふみ脱穀機になった。

夜になると若い人は、遊ぶに歩くので親達ババジッコと2人して夜、「どみ」(唐箕)を回してチエ飛ばした。庭にさらに稲部を出して、そこに稲を一時置いてやった。

寝室は板目であった。寝るところは板敷きであった。藁布団、藁の「しなぐつた」シビ敷いて、その上に敷き藁布団敷いて寝た人もあった。藁布団は殆どの人が使った。あれまだぬぐくて「あずましい」ものであった。ふかふかして。

馬屋が家に付いてあった。便所は家と離れて外にあった。昔の人は苦勞した。井戸は、ほとんど堀り抜きであった。深い井戸は、つるべを落として水を汲み上げていたので水はきれいであった。

結婚式

家で結婚式やった。村の芸人を頼んで踊ってもらった。「えびす舞」とかあって釣竿をかついで、よく頼まれて踊っていた。祝う人は3日も祝った。つづみ(祝儀)は20銭つづめば大きい方だったと思う。

遊び

「か？」を折って、それぞれ、それを持ってケンカした。その外は風飛ばしがあつた。

若い者一人前になるまで「マゲ」によく寝て、21〜22歳まで外にやぐらを建てて家から離して「カリチヨ」柱4本立てて、それに木をやって(渡して)、それに板敷いて寝た。普段それを「やぐら」と呼んでいた。「今日、山久の「やぐら」さ泊る」とか言っていた。そこに寝ると家にはいないので、いつ戻っても家の人が分からない。「マゲ」だとしてしばらく寝れば、下からいくらも離れていないので下から木でどづがれだもんだ。その点「やぐら」は高いのでそんなことはなかった。

私が若い頃、黒石に遊びに行つて、「まま食つてそば食つて」へば50銭もらつて行つた。その頃、支那そばは15銭であった。生そばは5銭位であったと思う。50銭もらつて行くと1日いっぱい遊んでくれた。今の権現様が履くような足駄を履いて、夜はカスリの着物着て豆しばりをかぶつて行つた。黒石に盆踊り見に行つて、やぐらに上がつて足駄履いて踊つた。ガツガツと鳴らして。

正月

正月は、黒石に行つて映画見てきた。正月の年とって、屋根の雪降ろして、ババに支度出きだかど聞き、年とるようになれば午後1時〜2時になる。それから黒石に歩いて行くので、すつちもちすれば、あずましぐ見ねで、家さ戻らねばならない。まず映画見るだけだ。映画見て、支那そば食べて来るのが一番の楽しみであった。黒石まで歩いて行つて、また帰り歩いてもどねばまいねどこで。

農作業

「さんばか」(三本鋤)で田を打つた(耕やした)もんだ。

遊び

花札やトランプ遊びよくやった。その後、「だぐ」飲んで豆腐をよく食った。

◆ 歯なしの話 93 ◆

ラグビーワールドカップ

佐藤 透

ラグビーを観戦させるために家内に言った事は、難しく考えることはない、ルールは幾つもない。とりあえず

ボールを前に落としたり、投げたりしないこと、更にはラフなプレーをしない事などである。

勿論、紳士的に競技することは大事なことである。その都度テレビや競技場で説明してくれるから、大體理解は出来るということである。

さて皆様、日本のラグビープレーヤー達の活躍を見ていかがですか?以前に比べてかなり強くなってきていると思いませんか?2〜3年前に東京でニュージランド(オールブラックスの二軍)と日本が戦った時は一ケタの得点対数十点(多分40〜50点か70〜80点だと思ふ)。それでもそれ以前は百点以上の取られていた時代もあつたので、それを思うと少しづつ強化されてきていることが分かる。

とにかくボールをもっている相手を倒して良いのである。それも防具をほとんどつけず、生身の人間同士がぶつかり合うので壮快である。もちろん相手に敬意を表しながらプレーすることが大事で、余り過激過ぎるとペナルティである。サッカーと違うのは選手たちが身体的接触して良いということである。

実は私自身も今回の快挙を想像していなかった。少しは勝つとは思っていたが、同じ組のトップであり4連勝した。素晴らしいことである。イギリス・南アフリカ・オセアニア・フランス等々が強く、アジアはまだベスト8には届かないと考えていた。私の考えは誠に日本選手に失礼なことであつた。

このまま是非ベスト4を、そしてベスト2、更に優勝までして欲しいものである。残念なことはあまりにラグビーが面白いので他のスポーツをほとんど注目しなくなった事である。いろいろ開催されている他のスポーツも魅力を充分に出して頑張つて欲しいものである。

……俄ラグビーファンより

残念なことにこの原稿を出す前に日本は南アフリカに敗退しました。これからも頑張つてください。

川柳

お酒ほど旨い薬とまだあわぬ

福井 伝馬

秋半ばしつかり肥えたジヨロウグモ

木村 羊川

アットホーム喜怒哀楽のくり返し

佐々木トミエ

「今日の運勢」生きるヒントを貰う朝

清水 川魚

押しよせる増税の波に溺れそう

小笠原みなみ

台風の進路気をもむりんご園

野呂 文坊